日本政策金融公庫

技術の窓　№.2083　　H 27.9 .25

葉の黄化抑制も可能なユリ香り抑制剤

「カサブランカ」に代表されるオリエンタル・ハイブリッド系のユリは、豪華で美しい大輪の花ですが、甘く濃厚な芳香をもつために、強い香りを嫌う飲食店や結婚式などの食事の場では敬遠される場合があります。そこで、花き研究所では香気成分の生合成阻害剤の一つであるアミノオキシ酢酸(AOA)を用いてユリの強い香りを抑制する方法を開発し、2009 年に発表しました。しかし、ユリ切り花の AOA 処理により花や茎葉に障害がでる場合があります。そこで、後処理剤としての汎用性を高めた AOA を含む香り抑制剤を開発し、ユリ主要産地(新潟県、高知県、埼玉県)にて処理方法を検討し事例集を作成しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

１．アミノオキシ酢酸(AOA) 0.1 mM、ジベレリン 0.02mM、スクロース 0.3%、イソリアゾリン系抗菌剤(0.58 mg/L 5-クロロ-2-メチル-4-イソチアゾリン-3-オン、0.18 mL/L 2-メチル-4-イソチアゾリン-3-オン含有)から構成される処方を処理することにより、花や茎葉に障害を与えることなく香り抑制が可能になります。その処方を基に開発した香り抑制剤処理を行うと、AOA 単独処理と同程度香りを抑制した上、葉の黄化を抑制します(図 1)。

２．香り抑制剤は蕾の状態のユリ切り花に処理します。生産者にて処理する場合は、採花後、50 倍希釈した香り抑制剤で水揚げ処理を行います。

３.水揚げ時のみ香り抑制剤処理を行う乾式輸送よりも、水揚げ時に加え輸送中にも香り抑制剤処理を行う湿式輸送の方が香り抑制効果は高くなります。

４.夏季より冬季の方が香り抑制効果は高くなります。

５．上記の成果に基づき、ユリの香りの特徴と各産地での香り抑制剤の処理方法を示した主要産地事例集を作成しました。

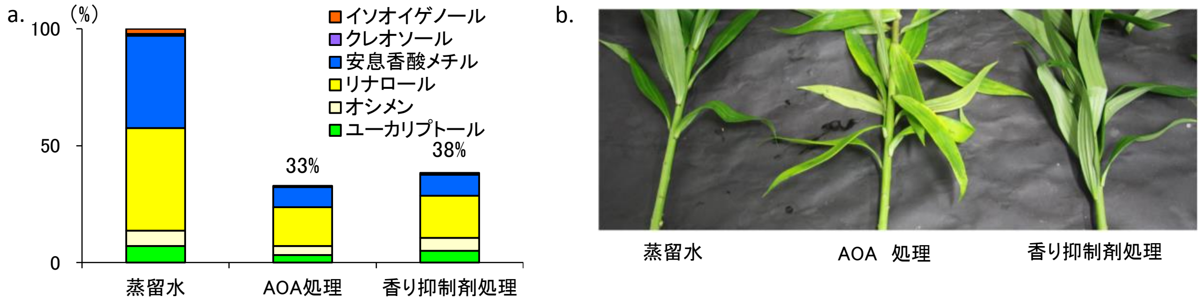

図１　香り抑制剤の効果　a.　香り抑制効果、b.　黄化抑制効果（「イエローウイン」）

☆ 活用面での留意点

１．事例集は花き研究所により冊子体を配布するとともに、花き研究所ホームページ上で PDF をダウンロードすることができます。

２．香り抑制剤は受注生産であり、切り花の生産者、小売店経営者などが注文して購入できます（販売元：クリザール・ジャパン株式会社、TEL:0721-20-1212)。

３．詳しいことは、花き研究所（TEL:029-838-6801）へお問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部　テクニカルアドバイザー　吉岡　宏）